

水のありがたさ

奈良市立富雄第三中学校二年

松本 夏樹

ある日、僕は蛇口をしつかり閉めたつもりでその場を離れた。しかし後で戻ってみると、水は出しっぱなしになっていた。流れ続ける水を見た瞬間、胸がどきつとした。「もつたいない」という気持ちと同時に、自分が水が無駄にしてしまったという強い罪悪感を覚えた。それまで僕は、水の存在を当たり前で特に意識することもなく使っていた。しかし、この出来事をきっかけに、水は決して当たり前のものではないことに気づいた。

僕は野球をしている。特に夏の練習はとても暑く、強い日差しの中で走り続けると、体中の水分が一気に奪われていくように感じる。頭が痛くなり、喉がからからになり、思うように体が動かなくなることもある。そんな時に飲む一口の水は、ただの水ではなく、自分の体を支えてくれる大切な存在だと感じる。水を飲むこと

で体全体に水が広がる感覚になり、「また頑張ろう」と思えるのだ。水がなければ、私は最後まで練習をやりきることはできないだろう。

また、冬の寒い日には、水のありがたさを別の形で感じる。冷えきった体でお風呂に入ると、温かいお湯が体の芯までしみわたり、ほっとした気持ちになる。そして、その日に起きた出来事をうまくいかなかったことでも落ち着いて整理することができる。その瞬間、僕は水に包まれているような安心感を覚える。普段は意識していなかったが、水は飲むだけでなく、こうして人の心や体を温めてくれる存在でもあるのだと実感した。

蛇口を閉め忘れたあの日の出来事、そして野球や日常生活の中で感じた経験を通して、僕は水との関わり方を見直すようになった。水はいつでも使える便利なものではあるが、それは決して無限ではない。だからこそ、一滴一滴を大切に使うことが必要だと思う。この出来事があったからこそ水への感謝の気持ちを忘れるこ

となく生活することができている。

これからも僕は、水への感謝の気持ちをお忘れず生活し、無駄にしないように心がけていきたい。あの日感じた罪悪感を忘れずに、水と向き合っていききたいと思う。

さらに、僕は普段の生活の中でも水の使い方意識するようになった。歯をみがくときに水を出しっぱなしにしないことや、手を洗うときは水を強くしすぎないとか、意識して生活している。ほんの小さいことかもしれないが、ちょっとしたでもみんなが意識したら、水の大切さに気づくと思う。これからも日々の小さな行動を大切にしながら、水とよりよい関わり方を続けていきたい。